

平成27年度障害者支援施設「高井田苑」事業報告

はじめに

高井田苑では、利用者一人ひとりが個人として尊重され、健康で安心・安全な生活を送ることのできるよう工夫に努めた。

利用者一人ひとりの障がい特性を理解し、個別支援計画を策定し、PDCAサイクルで支援のありようのチェックを行ってきた。

可能な限り合理的配慮に基づき、環境要因である環境整備及び支援スキルの向上に努めた。

I 利用者支援状況

1 利用者状況について(表1・2・3参照 平成28年3月31日現在)

生活介護(定員52名)～利用者数：49名(男性33名、女性16名)

施設入所支援(定員40名)～利用者数：39名(男性28名、女性11名)

○生活介護の利用者の年齢は、24歳から69歳までの方が利用している。

平均年齢は男性の平均年齢：40.6歳、女性の平均年齢：46.2歳。

○施設入所支援の利用者の年齢は、25歳から62歳までの方が利用。

平均年齢は男性：40.7歳、女性：46歳。

平成27年度 年齢別・障害支援区分別
利用者状況(生活介護) (表-1)

	男 性				女 性			計
	区分3	区分4	区分5	区分6	区分4	区分5	区分6	
20歳～24歳			1					1
25歳～29歳			2		1			3
30歳～34歳			1		1			2
35歳～39歳			6	2	1		3	12
40歳～44歳		2	6	6	1	1		16
45歳～49歳		1	3	1			2	7
50歳～54歳		1					1	2
55歳～59歳		1					2	3
60歳以上						2	1	3
合計	0	5	19	9	4	3	9	49

平成27年度 帰省及び
外泊状況(高井田苑・
グループホーム利用者(表-2)

帰省・外泊状況	人数
無し	10
年1回	2
年2～3回	9
年4～6回	2
年7～9回	7
月1回	9
月2回	9
月3回	2
毎週	1
合計	51

平成27年度実施機関別・障害支援区分別利用者数 (表 - 3)

	援護の実施機関	男	女	計	施設入所 支援	共同生活 援助	生活介護 (日中活動)	障害支援区分		
								4	5	6
1	柏原市	13	4	17	10	9	17	7	10	
2	羽曳野市	1		1	1		1			1
3	藤井寺市	1	1	2	2		2			2
4	八尾市	3	4	7	4	3	7		3	4
5	東大阪市	3	3	6	6		6		2	4
6	大東市	1		1	1		1		1	
7	寝屋川市	2		2	2		2			2
8	守口市		1	1	1		1		1	
9	茨木市	2		2	2		2		2	
10	箕面市		1	1	1		1			1
11	高槻市	1		1	1		1		1	
12	交野市		1	1	1		1	1		
13	枚方市	1	1	2	2		2		1	1
14	堺市	2		2	2		2		2	
15	泉大津市	1		1	1		1	1		
16	太子町	1		1	1		1		1	
17	大阪市	1		1	1		1			1
	合計	33	16	49	39	12	49	9	24	16

2 日 課 (下記の日課を基本として支援を行った。)

(午 前)	(午 後)
6:30 起床・洗面	13:00 作業活動
7:30 朝食・歯磨き	14:30 作業活動終了
8:30 コーヒータイム	15:00 間食
9:30 朝のつどい (1日の流れを説明)	16:00 入浴 整理・片付け
・散歩など個別活動	12:00 昼食・歯磨き
・作業	18:00 夕食・歯磨き
～休憩～	余暇時間・コーヒータイム
	22:00 就寝

○第2・第4週の土曜日と日曜日・祝日は作業を行わず、散歩、外出支援等を行った。

3 作業活動

- 生活班・軽作業班・リサイクル班・農耕班の4班及び従たる事業所である「すてっふ」で作業を中心に支援をした。
- 生活班・軽作業班・リサイクル班・農耕班は午後からの作業に全利用者が参加し、農耕班・軽作業班・リサイクル班の一部の利用者については午前中の作業にも取り組んだ。
- 「すてっふ」は、平日と第1・3・5の土曜日の午前9時30分から午後3時まで作業を行った。
- 男性1名は、平日の午前中、児童養護施設武田塾の便所の清掃に取り組んだ。
- 作業工賃は工賃規程に基づき毎月利用者に支払った。
年間(1人につき)：平均 約26,000円である。

(1) 農耕班

- ①職員体制 担当職員：4名
- ②利用者 男性利用者：5名 女性利用者：1名 計6名
- ③作業内容
 - ア 敷地内での野菜作り
それに伴う作業(開墾、堆肥づくり、種まき・水やり・植付け・草抜き・収穫・袋詰めなど)
 - イ 地域(柏原市役所・市内弁当屋・KSR関係事業所等)、高井田苑内での販売
 - ウ その他～不定期に開催されるイベントへの参加・販売～
 - エ 収穫物：ピーマン、オクラ、ナスビ、チンゲン菜、ネギ、水菜、春菊、ワケギ、ジャガイモ、さつまいも、ふき 等

(2) リサイクル班

- ①職員体制 担当職員：4名
- ②利用者 男性利用者：8名 女性利用者：2名 計10名
- ③作業内容
地域(芝山住宅等)からアルミ缶の回収を行う。⇒回収した缶を潰し、業者に買い取ってもらうまでの作業(缶を洗う・プルトップを外す・並べる・潰す)を分担して行う。⇒利用者一人ひとりの役割と場所の確保を行い、落ち着いた作業環境づくりを行う。
- ④課題
アルミ缶の回収量が減り、缶の在庫がなくなっているため、違う作業を提供する必要があった。

(3) 軽作業班

- ①職員体制 担当職員：4名
- ②利用者 男性利用者：2名 女性利用者：3名 計5名
- ③作業内容
 - ア 企業からの受注作業。(一部の利用者のみ)
 - イ 利用者の能力に合わせた作業提供。(作業量の調整や種類を増やす)
 - ウ 生産能力の開発を目指した個別課題の提供。

エ タイマーを使って、作業の量と時間を調整している。

④課題

ア 個別課題から生産性のある作業に移行を進めていく。

イ 作業の種類を増やしていく。

(4) 生活班(1階)

①職員体制 担当職員：4名

②利用者 男性利用者：1名 女性利用者：6名 計7名

③作業内容

ア 企業からの受注作業（一部の利用者のみ）

イ 身体機能の維持を目的とした散歩や縄跳びなど、体を動かす活動を取り入れている。

ウ 自立課題や作業に取り組むために、一部の利用者は手指の機能維持に努めた。

④課題

ア 作業場所と生活空間の分離。

イ より多くの利用者に対して生産性のある作業を提供する。

ウ 作業工賃をわかりやすい形で示し、作業のモチベーションに繋げる。

(5) 生活班（2階）

①職員体制 担当職員：7名

②利用者 男性利用者：11名

③作業内容

ア 企業からの受注作業。（6社からの受注を受ける）

ねじの袋わけ、教材のパッケージングなど多岐にわたる。

イ 障がい特性に配慮したわかりやすい作業の提供を行い、重度の障がいのある方にも生産性のある活動を提供できた。

ウ 金曜日には作業工賃で利用者とお菓子等の購入を行い、1週間の作業を労った。

④課題

すてっぷ・軽作業班と連携して新たな企業開拓を行い、作業収益向上を計る。

(6) すてっぷ

①職員体制 担当職員：3名

②利用者 高井田苑から男性利用者:3名（うち1名は週3日）、女性利用者:1名
グループホームより、男性利用者:3名、女性利用者:3名 計10名

③作業内容

ア 企業からの受注作業（6社からの受注を受ける）

ねじの袋わけ、教材のパッケージングなど多岐にわたる。

イ 健康維持のための散歩やストレッチの取り入れ。

ウ 作業工賃を使っての買い物支援。

エ 自立生活のための勉強会を実施し、利用者の自己決定を促す支援を行ってきた。

④課題

ア 「すてっぷ」利用者での一泊旅行を計画している。行き先の決定及び準備過程での利用者の参加を促し、自らの意思表示、自己決定できるよう支援する。

イ 利用者と職員が定期的に話し合う機会を設け、利用者の意見を聞き、それを反映できる機会を提供する。

ウ 利用者自身が働いて得た工賃を使って、新たな経験や社会資源の活用をしてもらうことで、作業に対するモチベーションをあげる。

エ 作業内容やその提供の方法・時間なども再度検討する。

平成26・27年度別作業収益比較表

	農耕	リサイクル	軽作業	生活	すてっぷ	その他	計
26年度	186,378	476,539	445,340	175,305	309,313	2,110	1,594,985
27年度	94,742	284,801	78,001	218,917	607,656	16,875	1,300,992

4 行 事

平成27年度の行事計画は、個別ニーズに基づいた小集団での行事を基本とした。

日 時	行 事 内 容	参加者数
4月5日(日)	花見大会	36名
5月16日(土)	グループホーム調理実習	9名
5月17日(日)	高井田苑祭	200名
5月27日(水)	白浜 とれとれ市場(日帰り旅行)	4名、家族1名
6月17日(水)	ユニバーサルスタジオジャパン(日帰り旅行)	5名、家族2名
6月26日(金)	KSRボーリング大会	7名
6月27日(土)	休日クッキング	16名
7月15日(水)	京都嵐山(日帰り旅行)	5名、家族4名
7月25日(土)	武田塾納涼祭	48名、家族11名
8月19日(水)	彦根城(日帰り旅行)	4名、家族6名
8月21日(金)	夏祭り	38名
9月9日(木)	関西サイクルスポーツセンター(日帰り旅行)	4名、家族1名
9月19日(土)	懇親会	49名、家族26名
10月17日(土)	スポーツフェスタ2015大阪	9名、家族7名
10月21日(水)	信太山青少年野外活動センター(日帰り旅行)	4名、家族3名
10月25日(日)	科長の郷オータムフェスタ	4名
10月29日(木)	奈良健康ランド(日帰り旅行)	1名
10月29日(木)～ 10月30日(金)	大江戸温泉物語 ひらかたパーク(1泊旅行)	1名
11月8日(水)	神戸総合福祉ゾーンしあわせの村	5名
11月15日(日)	柏原ふれあい広場	3名
11月26日(木)～ 11月27日(金)	レオマリゾート(1泊旅行)	2名
11月29日(日)	大掃除	37名、家族27名

11月29日（日）	焼き芋大会	44名、家族13名
12月16日（水）	海遊館（日帰り旅行）	4名、家族2名
12月23日（水）	クリスマスパーティー	37名
1月5日（火）	「すてっぷ」初詣	10名
1月11日（月）	しあわせの村主催 マラソン大会	5名
1月20日（水）	針テラスベリーファーム（日帰り旅行）	3名、家族2名
2月12日（金）	KSR大文化祭	5名
2月17日（水）	エキスポシティ（日帰り旅行）	3名、家族1名
3月16日（水）	姫路セントラルパーク（日帰り旅行）	4名、家族2名

○作業終了後や休日は近隣のコンビニ等への個別外出も行った。

5 自治会活動

利用者自治会の会議を月1回開催し、利用者から出た行事や食事に対する意見等を支援に反映させた。

6 健康管理

定期健康診断を年2回、歯科健診を年1回実施、インフルエンザの予防接種を11月に実施した。

また、月1回の体重測定を実施し、地域の医療機関と連携を取りながら、健康管理に努めた。

7 栄養管理

給食は日清医療食品(株)に業務委託した。日々の食事の様子、給食会議、嗜好調査等とおし、利用者の希望が反映できるよう食事サービスに努めた。

また管理栄養士による栄養マネジメントを行い、個々の栄養状態、身体状況を把握し、健康状態の維持、向上に努めた。

8 安全管理

平成27年9月と28年3月の2回、利用者、職員が参加し、避難訓練を実施した。

3月は、柏羽藤消防署員立ち合いで避難訓練を行うとともに、訓練後は消火器による消火訓練、心肺蘇生法及びAEDの実地講習を実施した。

9 家族会との連携

家族会定例会（偶数月の第4日曜日）に施設長が出席し、家族との意見交換をした。家族からの意見等を施設運営の参考とした。

II 職員体制

1 職員数

職名	施設長	サービス管理責任者	生活支援員	栄養士	夜勤専任支援員	看護師	事務員	その他	合計
常勤	1	2	22	1		1	3		30
非常勤			12		3	(1)	1	1	18

2 会議の状況

会議名	開催頻度	備考
職員会議	月1回	
運営会議	月4回	毎週水曜日の午後に実施。
ケース会議	月2回	個々の利用者ごとに支援方法等を検討。
午前引継ぎ	毎9:00	前日からの状況を引継ぎ、情報の共有を図る。
午後引継ぎ	毎15:30	当日の状況を確認、情報の共有を図る。

3 研修

(1) 外部研修

日時	研修内容
5月21日	H27年度障がい者総合支援制度における指定事業者・施設 集団指導
6月12日	大阪知的障害者福祉協会 障害者支援施設部会幹事会
6月19日	H27年度大阪府・市町村社会福祉法人 施設監査合同説明会
7月13日	社会福祉法人制度はこう変わる！
8月6～7日	公正採用選考人権啓発推進員 新任・基礎研修
9月4日	社会福祉施設人権活動推進協議会 府域研修会
9月10日	マイナンバー対応セミナー
9月11日	栄養士・調理員等研修会
10月19日	「育ち」に課題のある知的障がい者の大人になってからの支援
10月22日	リスクマネジメント研修会
10月22日	新任職員研修会(大阪知的障害者福祉協会)
12月12日	大阪府社会福祉事業団 障がい福祉セミナー
12月2～3日	近畿地区知的障害関係施設長等会議
12月21日	福祉医療機構実務研修会
1月14日	中堅職員研修会(大阪知的障害者福祉協会)
1月15日	知的障がいのある方の「環境調整」という支援
2月9～10日	第52回近畿地区知的障害関係 職員研修会
3月10日	顧問弁護士を囲む勉強会(大阪知的障害者福祉協会)

<継続研修>

- ① 大阪知的障害者福祉協会地域支援部会(グループホーム)～
6月5日、7月22日、9月14日、11月25日、1月27日、3月25日
- ② 大阪知的障害者福祉協会地域支援部会(短期入所)～
9月16日、11月17日、2月17日
- ③ 平成27年度強度行動障がい支援者養成研修(基礎研修・実践研修)
9月と11月にそれぞれ2回ずつ 計4回
- ④ 強度行動障がいリーダー養成研修～
6月29日、7月14日、8月4日、9月1日、10月7日、12月8日
- ⑤ 平成27年度大阪府相談支援従事者初任者研修～
2月3日、2月4日、2月11日、2月12日、3月10日
- ⑥ 柏原作業所連絡会研修会～8月28日、2月26日

(2) 内部研修

- ① 児童養護施設武田塾と児童養護施設東光学園と合同研修を3回実施。
(高井田苑職員も参加)

主 催：大阪府社会福祉協議会「アウトリーチ型研修助成事業」
(大阪民間社会福祉事業振興基金助成)

開催日時：9月29日、11月13日、2月18日

開催場所：社会福祉法人武田塾 地域交流ホール

研修内容：

- 1回目 「コモンセンスペアレンティング」
講師 情緒障害児短期治療施設「あゆみの丘」松川氏
- 2回目 「ライフストーリーワーク」
講師 武庫川女子大学発達臨床心理学研究所 才村氏
- 3回目 「アタッチメントについて」
講師 京都大学 工藤氏

- ② 人権研修を実施した。

研修内容：フィールドワークを中心にした参加型とした。

「利用者の気持ちや立場を考える」及び

「虐待の起こる背景を探る～過去の高井田苑の支援について～」

4 他施設職員との交流の促進

柏原市作業所連絡会の会員として活動し、ボーリング大会、文化祭等の行事や合同研修会等を通じ、各施設の職員と連携・交流を進めた。

また、柏原市障害者自立支援協議会に参加し、他機関職員と意見交換等を行った。

5 実習生の受入れ

27年度は下記のとおり、実習校2校、10名の実習生を受け入れた。

平成27年度 実習生受入れ日数表

学 校 名	期 間	日数	男	女
大阪女子短期大学	平成27年 8月 9日～8月19日	10日		2
大阪女子短期大学	平成27年 8月20日～8月30日	10日		2
大阪女子短期大学	平成28年 3月 6日～3月16日	10日		2
大阪女子短期大学	平成28年 3月17日～3月27日	10日		2
東大阪大学 短期大学部	平成28年 2月22日～3月 4日	10日		2
計		50日	0	10

日中一時支援・短期入所事業報告

1 内容

事業認可 平成18年10月（障害者自立支援法に基づく認可）
 一日最大宿泊利用人数 5名（男3名、女2名）
 日中一時支援利用人数 5名
 利用期間 障害者（児）受給者証に記載されている日数
 担当職員 支援員を充当

2 基本方針

保護者、家族の傷病等や仕事の関係、利用者本人の状況から介護が困難となった場合、また、保護者、家族の精神的、身体的レスパイトが必要な場合に短期入所サービスを提供した。

3 基本の支援

利用者の個別状況に配慮しつつ基本的に入所利用者の日課に沿った支援を行った。

4 日中一時支援・短期入所サービス利用状況

平成27年度日中一時支援 利用日数																	
氏名	性別	市町村	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
A	女性	柏原市	2		1											1	
B	男性	柏原市	6	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	
				3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	37	
平成27年度短期入所支援 利用日数																	
氏名	性別	市町村	区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
C	女性	柏原市	2	3	3	4	2	3	4	4	4	4	3	3	2	3	38
A	女性	柏原市	2				2								2	4	
D	女性	柏原市	4	4	5	5	5	2	5	4	3	4	5	2	4	48	
E	男性	羽曳野市	5							5						5	
F	男性	八尾市	6	3		3	3		4		3		3		3	22	
				10	8	12	12	5	13	13	10	7	11	4	12	117	

障害支援区分別 延べ利用日数						
支援区分	2	3	4	5	6	合計
短期入所	42	0	48	5	22	117
日中一時	1	0	0	0	36	37

なお、短期入所サービスを利用希望される方の中には、激しい物壊し、自傷・他害行為等があり、個別対応が必要であると判断される場合は、やむを得ず断ることもあった。

現在の高井田苑の建物の構造上、個室対応ならびに刺激を遮断する等が難しく、強度行動障がいのある方の支援が困難と判断する。

障害者緊急一時保護事業

障害者虐待防止法に基づく緊急一時保護事業は、柏原市・羽曳野市・藤井寺市・松原市と委託契約を締結している。

平成27年度の緊急一時保護はなし。

平成27年度 相談支援事業報告

地域生活支援センター さんねっと

はじめに

地域生活支援センターとして、柏原市において在宅で障がいのある方に対し、自立した生活が送れるよう支援するとともに、各種障がい福祉サービス利用のための援助、調整を行った。

また依頼を受け、サービスが円滑に受けられるよう利用計画を作成し、そのサービスが適切に運用されるようモニタリングを行った。

その他、必要に応じて訪問や関係者会議を行い、本人ならびにその家族の福祉の向上を図った。

1. 柏原市障害者支援事業

柏原市からの委託を受けている一般相談については、新規相談は10件あり、本年も虐待の事案についての緊急対応や健康上の問題、引きこもりの事案について動くことが多くあった。また、障がい別としては、精神障がいの方の相談を受けることが多くあった。

福祉サービスの利用については柏原市はじめ近隣市の事業所との関係を深め、状況を把握するなど、社会資源の開拓とサービスの向上に努めた。

(1) 相談支援を利用している障がい者等の人数

	人員	身体障害	重症心身	知的障害	精神障害	発達障害	高次脳	その他
障がい者	136	12	0	107	23	0	0	1
障がい児	12	2	0	11	2	5	0	0
計	148	14	0	118	25	5	0	1

(2) 支援方法

方法 年度	訪問	来所相談	同行	電話相談	電子 メール	個別支援 会議	関係機関	その他	計
	26	225	139	32	258	70	6	65	244
27	348	102	28	414	2	8	54	330	1286

(3) 支援内容

	福祉サービスの利用等に関する支援	障害や病状の理解に関する支援	健康・医療に関する支援	不安の解消・情緒安定に関する支援	保育・教育に関する支援	家族関係・人間関係に関する支援	家計・経済に関する支援
26年度	230	271	90	346	26	375	47
27年度	385	143	154	350	31	281	31

	生活技術に関する支援	就労に関する支援	社会参加・余暇活動に関する支援	権利擁護に関する支援	その他	計
26年度	101	347	491	48	63	2435
27年度	94	366	475	39	1	2350

2. 大阪府療育等支援事業

今年度は障がい児当事者を取り巻く施設等への支援を行った。特に今年度卒業する予定者の進路についての相談が多かったこともあり、学校と地域の福祉サービス事業所(生活介護や就労継続支援B型、就労継続支援A型等)との連携を円滑に行えるよう努めた。今年度の支援件数は52件であった。

大阪府療育等支援事業は大幅な見直しにより、今年度で終了となる。

3. 計画相談

26年度登録数 56件(知的障がい児4件 知的障がい者45件 精神障がい者5件
重複障がい者2件)

27年度登録数 107件(知的障がい児6件 知的障がい者75件
精神障がい者11件 重複障がい者15件)

27年度計画作成件数 121件 モニタリング件数 177件

計画相談も100件を超え、計画相談の依頼に対して細やかな見守りや支援が疎かになりつつあるため、利用者の立場に立った一人一人のニーズの聞き取りや必要に応じた介入等を行っていくことが今後の課題となっている。

また、計画相談を受ける中で、サービスの調整だけにとどまらず、生活全般に関わる必要と思われる方もあり、そのため家庭訪問等をこまめに行うなど問題の改善に努めた。

今年度から、高井田苑入所者の計画相談も徐々に受け入れており、今後地域での生活を希望されたときに円滑に進むよう、柏原市や近隣市の資源などの状況を把握し、必要に応じて情報提供できるよう努めていく。

4.当事者支援(社会貢献事業)

さんねっとの活動で大きな部分を占める社会貢献としての当事者支援活動は、よりご本人たちが主体となって活動していくことを意識していただけるように、総会という形でご本人たちが希望を発言できる場を提供している。また、ボランティアにも参加してもらうことで、普段外出する機会の少ない人も気軽に参加できる場となるよう努めた。

じゃむの会

月日	場 所	参加人数	内 容
4月11日	馬見丘陵公園	19人	花見をしよう
5月17日	高井田苑	15人	高井田苑祭出店
6月13日	柏原文化センター	14人	じゃむの会上映会
7月11日	柏原文化センター	12人	栄養について学ぼう
8月8日	A-STYLE 河内国分店	15人	カラオケで歌おう
9月26日	オアシス	9人	河内音頭をおどろう
10月10日	上ノ太子観光みかん園	16人	みかん狩りをしよう
11月14日	三輪そうめん山本	16人	手延べそうめん体験
12月12日	すてっぷ	22人	総会&クリスマス会
1月9日	国分合同会館	16人	鍋で新年会
2月13日	柏原市立公民館	13人	手話を学ぼう
3月12日	A-STYLE 河内国分店	19人	カラオケで歌おう

さえらの会

月日	場 所	参加人数	内 容
4月25日	さんねっと	12人	母の日のプレゼントを作ろう
5月23日	さんねっと	5人	ゲームで遊ぼう
6月27日	さんねっと	9人	ペットボトルでペン立て
7月25日	さんねっと	5人	さをり織りに挑戦
8月22日	さんねっと	8人	オリジナルドーナツ
9月12日	大阪市立自然史博物館	11人	博物館へ行こう
10月24日	さんねっと	9人	ハロウィンのお菓子作り
11月28日	さんねっと	6人	折り紙でクリスマスリース
12月26日	さんねっと	9人	ゲーム・座談会
1月23日	さんねっと	6人	書き初めをしよう
2月27日	さんねっと	11人	粉もんパーティ
3月26日	さんねっと	8人	キャラ弁に挑戦

わおんの会(第1, 第3日曜日)

月日	場 所	参加人数	内 容
4月5日	さんねっと	1人	歌、紙芝居、カレンダー作り、楽器遊び
4月19日	オアシス	3人	歌、紙芝居、ゲーム
5月3日	さんねっと	1人	歌、紙芝居、カレンダー作り
5月24日	オアシス	3人	歌、紙芝居、楽器遊び
6月7日	さんねっと	4人	歌、紙芝居、カレンダー作り
6月21日	オアシス	3人	歌、紙芝居、創作活動
7月5日	さんねっと	3人	歌、紙芝居、カレンダー作り、歌唱
7月19日	オアシス	2人	歌、紙芝居、歌唱
8月2日	さんねっと	3人	歌、紙芝居、カレンダー作り
8月16日	さんねっと	4人	歌、紙芝居、歌唱、ハワイアン
10月4日	さんねっと	3人	歌、紙芝居、カレンダー作り
10月18日	さんねっと	3人	歌、紙芝居、音遊び
11月1日	さんねっと	3人	歌、紙芝居、カレンダー作り
11月15日	オアシス		打ち合わせ
12月6日	さんねっと	4人	歌、紙芝居、カレンダー作り、ゲーム
12月20日	オアシス	4人	歌、紙芝居、楽器遊び、創作活動
1月10日	さんねっと	2人	歌、紙芝居、カレンダー作り、書き初め
1月24日	オアシス	2人	歌、紙芝居、音遊び
2月7日	さんねっと	2人	歌、紙芝居、カレンダー作り
2月21日	さんねっと	3人	歌、紙芝居、ミュージックベル、お楽しみ会

平成27年度 居宅介護事業報告

居宅介護事業所 さんぽーと

1. 事業概要

障害者総合支援法に基づき、障がいのある方が永く地域で生活できるよう、その多様なニーズに応えるため、様々なサービスを提供し自立の促進及び生活の向上を図るべく支援を行った。

平成24年事業開始から徐々に依頼も増え地域にも認知されるようになってきており、今後もこれに応えることのできるサービス体制の充実と、ヘルパーの質の向上を図っていききたい。

2. サービスの種類

移動支援

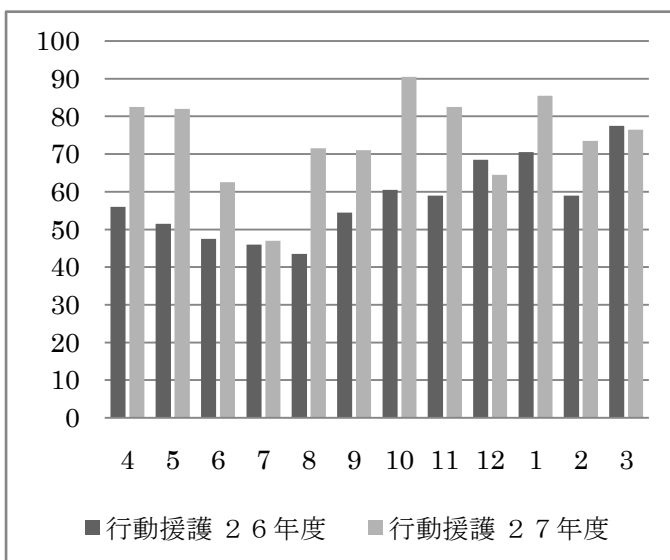
行動援護

居宅介護（家事援助・身体介護・通院介助）

3. 活動状況

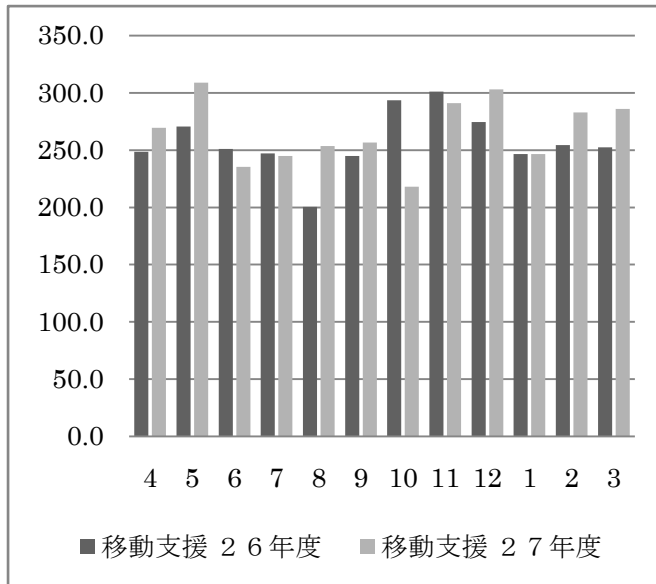
(時間)

		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
移動支援	26年度	248.5	270.5	251.0	247.0	200.5	245.0	293.5	301.0	274.5	246.5	254.5	252.5	3085.0
	27年度	269.5	309.0	235.5	245.0	253.5	256.5	218.0	291.0	303.0	246.5	283.0	286.0	3196.5
行動援護	26年度	56	51.5	47.5	46	43.5	54.5	60.5	59	68.5	70.5	59	77.5	694.0
	27年度	82.5	82	62.5	47	71.5	71	90.5	82.5	64.5	85.5	73.5	76.5	889.5
居宅(家事)	26年度	29	31.5	33	32.5	26	28.5	26.5	35	33	31	34.5	42	382.5
	27年度	41.5	50	37.5	42.5	23	27	28.5	35	35	33.5	38	27	418.5
居宅(身体)	26年度	34	35.5	25	19	10	10	15.5	17	15.5	17	12	10	220.5
	27年度	16	16	16.5	19.5	10	10	13	12	13	12	11	10	159.0
居宅(通院)	26年度	43	53	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	115.0
	27年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0



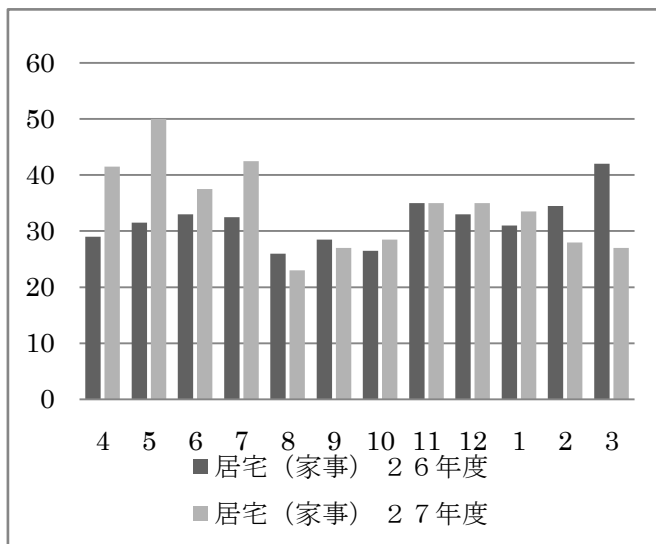
行動援護

高井田苑利用者、他事業所からの紹介もあり利用者は増加傾向にある。対応面で十分な配慮が必要な方も多く、ヘルパーの質の向上が必要。



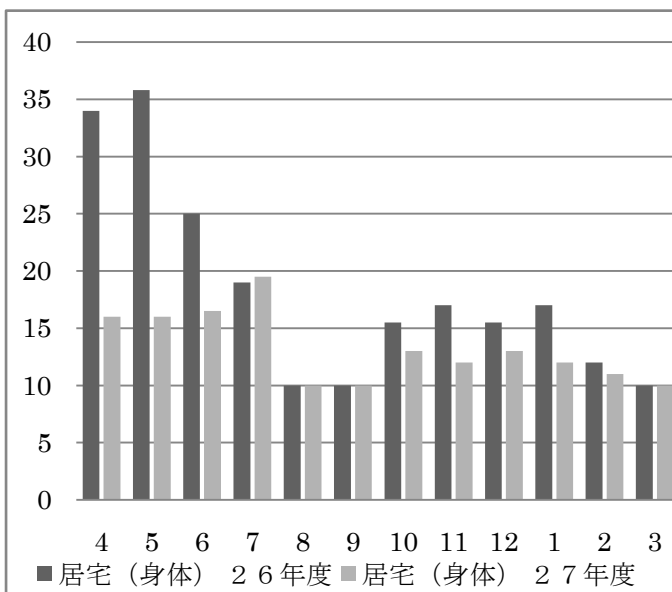
移動支援

他の市町村の利用もあり、契約者の数は増加している。
 今後も柏原市、その他市町村の利用の増加が見込まれる。



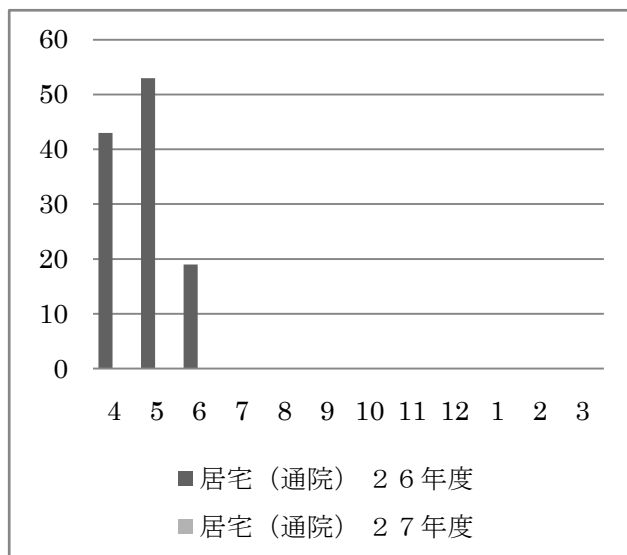
居宅介護（家事援助）

昨年度に続き徐々に依頼は増えてきていが、利用する頻度にばらつきがある。
 今後も増えていくことが予想されることからヘルパーの確保を進めるとともに資質の向上をめざしていきたい。



居宅介護（身体介護）

昨年度より利用者数に変化がない。
 身体介護を希望する利用者が少ないため、大きな増減はない。



居宅介護（通院介助）

家事援助で薬の代理受け取りが可能のため、現在の利用はほとんどない。

4. その他

本年度新たに6名の方と登録ヘルパーとしての契約を行ったが大学卒業、就職等の理由から現在ヘルパー総数は23名となった。

現任のヘルパーに対しては、人権に関する研修や、実践に即した勉強会を定期的に行い資質の向上を図った。

今後依頼はますます増加することも予想することから、要望に対して適切な派遣ができるよう、ヘルパーの確保は急務の課題となっている。

引き続き積極的な募集活動を行うと共に、定期的な勉強会を行いながら事業所全体の底上げをめざしていく。